

災害廃棄物（木材チップ）の受け入れ表明に対し、岩手県大槌町長が、感謝の意を伝えるため来島しました。また、多くの感謝の声も、岩手から届いています。

4月18日、岩手県大槌町の碓川町長が、桜井市長を敬訪問しました。

碓川町長は「島田市が最初にがれき処理の声を上げてくれたことで、広域処理の支援の輪が全国に広がっている。町民の代表としてお礼を申し上げたい」と述べました。桜井市長は「当たり前のことややっているだけ。大槌町や山田町のがれきが全て片付くまで受け入れたい」と答えました。

その後、碓川町長は市職員約120人を前に、当時の苦労を防災の糧にしてもらいたいと、講話会を



握手を交わす桜井市長と碓川町長(右)

て、島田市が震災がれきの受け入れを決定したことに、涙が出る。感謝の気持ちでいっぱい」と今の心境を語りました。

4月9日には、静岡県内に在住している岩手県人会の皆さん10人が、被災地の災害廃棄物の受け入れに対する感謝の意を伝えるため、市長を表敬訪問しました。

県人会中部支部会長の勝又信さん（静岡市葵区在住・金ヶ崎町出身）は、「島田市が全国に先駆け、がれき処理に對して非常に強い意志で協力を表明し、実行に向けて着実に前進していることに、私も岩手県出身者は、本当に心強く感じ、感涙に浸っている」と岩手県民の皆さんの気持ちを代弁しました。



被災地の現状を自治会長に語る碓川町長



感謝の意を桜井市長に伝える勝又さん(右)

会員の中には、東日本大震災で大きな打撃を受けて肉親を失った人や、生家が波に流されてしまった人などもあるそうです。悪夢のような大震災から1年以上経った今でも、災害廃棄物の処理がほとんど進まず、住民は心を痛めている状況だといわれています。

### 岩手県被災地視察参加者募集

被災地の復興を妨げている災害廃棄物の現状を視察しませんか。市が受け入れを表明している災害廃棄物が「どこで」「どう」選別処理されているかを、ご自分の目で確認できます。

とき／7月3日(火)～5日(木)  
(2泊3日・バス利用)

ところ／岩手県大槌町および山田町の災害廃棄物処理施設、宮古市仮設焼却施設

対象／市内在住の人

参加費／2万9000円程度

定員／60人(2人部屋)

しめきり／6月8日(金)

※応募者多数の場合は抽選。

申し込み／申込書に必要事項を記入して、直接またはファクス

(035・6000)で防災課へ

※申込書と日程表は、防災課(市役所4階)にあります。また、

市のホームページからもダウンロードできます。

〒985-0801 大槌町

防災課 電話 36・7212

## 被災地から

岩手県盛岡市から市長に寄せられた手紙をご紹介します。原文のまま掲載しています。

長い冬も終わり、やっと暖かな日射が続くようになりました。これまで、当地にいた白鳥たちは、次々とシベリアへ飛び立っていきます。

突然のお便り、失礼いたします。私は、岩手県盛岡市在住、46才の主婦です。この度の島田市長のご英断に一言、感謝申し上げます、ペンを執りました。

東北のがれき処理に、積極的に対応して下さること、そして、マスコミに向けてもHP上でも、力強くご意思を発信し続けることに、深く感銘を受け、敬服しております。島田市長の発言の影響もあってか、がれき処理に対応して下さる自治体も増えてきたことは、いくら感謝してもしきれないほどです。

私は、被災地としてくられることには心苦しい、内陸の盛岡市に住んでおります。身近な人に被害はなかったとはいえ、地元新聞で日々伝えられていること、そして、復興のために現地に赴いている友人たちの話を聞くたび、胸がしめつけられるようになります。加えて、岩手県に住

んでいながら、現地へ赴き直接的なお手伝いをしていない(できない)自分に、負い目も感じております。

これは、私だけではなく、ほとんどの母親たちがもっていると思われる。復興のお手伝いを…と思っても、家庭をないがしろにして「人のため」に動くことは、正しくないような気がするからです。募金メール等で回ってきた支援物資依頼に対応するのが、最低限なのです。

日々、何ができるのか? 自問自答の毎日の中、目の前にいる子供たちを心身共に健康な人間に成長させ、一刻でも早く、復興のお手伝いのできる、東北の日本の担い手になるべく人間にすること。それを、私なりのお手伝い…支援といたしました。私ひとりでは、したくてもがれきの処理の支援はできず、長期の計画ではございますが、そう、心にきめました。

そんな中、今回の島田市長の英断を知り、本当に心から敬服しております。ご自分の保身だけを考えたら、多くの障害、マイナスなこともおありだと思えますが、強い信念で全ての責任を負う姿。おそらく、多くの問題解決を日々迫られておられると思います。いつ拝見してもますますぐな瞳で、意思を伝えていらっしやいます。

私が将来、心身ともに健康な人間に育て、社会に送り出す予定の目の前にいる子供たちには、毎日言い聞

かせております。「島田市長さんの顔を覚えておきなさい」「将来、静岡県島田市出身の人に出会うこともあるだろうけど、そのときは、このことのお礼を言うように」本当に理解できていないか、私はわかりませんが、日々繰り返しております。地元では「島田市特産物の販売を行ったらどうか」などという声もきかれます。それほど、市長のご英断は称えられているのです。

数年前判明した、岩手・青森県境の産廃不法投棄事件。都会のごみが、東北道を使って運ばれ、不法投棄されました。県と国とで経費負担となりながらも、未だ解決していません。そのようなことがあっても、私たち東北人は「…仕方なく」と声を大きくすることができませんでした。「放射能は問題ない」と説明しても、プラカードを持ち「絶対反対!!」と声を荒げている姿を報道でみるたび―私はとても苦々しい思いで観ています。逆の立場になれば、私も同じ行動を、考えをもつか身―と考えることは、できないのでしょうか? 「絆」というのは、まわりまわって、我が身に還ってくる―とは、考えては頂けないでしょうか?

岩手人は、東北人は、決して恩義は忘れません。島田市の方々のために「あのときのお返しを」と動きだすと思います。どうか、島田市長の

三月二十六日

市および市長に寄せられたEメール(抜粋)は、ホームページでご覧いただけます。

http://www.city.shimada.shizuoka.jp/hisyo/sityounoheyar.sityou\_top.jsp

http://www.city.shimada.shizuoka.jp/kankyou/sisetu/gareki\_top.jsp

岩手県大槌町のホームページ http://www.town.otsuchi.iwate.jp/

岩手県山田町のホームページ http://www.town.yamada.iwate.jp/